

教会成長研究院

【第三弾】 神山威氏の講演内容の誤り、およびみ言解釈の誤り（後編）

神山威氏は、二〇一四年六月十八日、韓国・釜山で開催されたUCI（別名・郭グループ）での集会において講演をし、その後も韓国各地での講演会で、天國經典『天聖經』の批判、真のお母様に対する批判、および後継者問題などについて自説を語り、統一教会員の一体化を損ねる分裂行動をしました。神山氏はそれにとどまらず、日本でも同年九月二十一日に東京、同二十三日に名古屋、同二十六日に福岡で講演会を行い、同様の批判を繰り返すべ、教会内部に混乱を引き起こさせる分裂行動を取っています。

既に【第一弾】【第二弾】「神山威氏の講演内容の誤りについて」を掲載しましたが、今回は、神山氏に同調するブログに掲載された言説などに基づき、その問題点を指摘します。なお、誌面の都合上、文字数の制限があるために、より詳しくは「真の父母様宣布文サイト (http://trueparents.jp/) をご覧ください。」
注・本文中、神山氏側の主張は「茶色」で、真の父母様のみ言や既に発表した公式見解は「青色」で色分けしています。

(3) 「なぜ統一教会にしがみつき続けるのか」という批判に

神山氏は、日本教会が「世界

基督教統一神霊協会」の名称を使用していることに対し、「お父様は、『世界基督教統一神霊協会の使命が終わることによって、宗教の使命は終わり、救いを必要としない、人類史上初め

て宗教を必要としない新時代に入るのです。家庭連合は家庭を理想家庭にすることによって、神様の創造理想を復帰完成して天的理想世界を立てるものです。』（天聖經、成約人への道）
と言われ、実際に、一九九六年七月、お父様は『世界平和統一家庭連合』を創立されました。……なのになぜ、日本は『世界基督教統一神霊協会』にしがみついているのですか？ お父様の指示を無視しているのではないのでしょうか（神山氏「日本統一教会の声明文に対する反論」と批判します）。

日本教会は、真のお父様のみ言を受け、名称変更について関係所轄庁に打診しました。しかし、諸事情から、その時点では

難しいという結論に至りました。宗教法人の名称変更には法的手順があり、法律を無視して勝手に名称変更するわけにはいきません。日本本部はお父様のみ言を無視しているのではなく、

今もなお、名称変更に向けて取り組んでいます。
ちなみに、真のお父様は「家庭」について次のように語っておられます。
「救いの目標は、家庭の救いを単位とするのですが、その家庭の救いの基盤というのは、世界を指導でき、世界の救いまで責任を負うことができる家庭のことをいうのです。……イエス様は、何をしに來られたのでしょうか。家庭を探しに來られたのでしょうか。……救いとは何でしょうか。家庭を失ったので、それをもう一度探し出すことです」（八大教材・教本『天聖經』五一二ページ）

ここで、「救いの目標は、家庭の救いを単位とする」と語っておられるように、真のお父様が創設された世界平和統一家庭連合は重要であり、摂理の中心であることが分かります。真の

お母様は、基元節を機に名称を統一教会から世界平和統一家庭連合に変更され、「これからは家庭教会になる。全ての宗教団体を超宗教的に家庭を中心として家庭連合と一つにならなければならぬ」（『トゥデイズ・ワールド ジャパン』二〇一三年四月十日号四六ページ）と語られました。お母様は、お父様の遺された意向を受け、名称変更をされましたが、この一点を見ても、お母様はお父様と完全に一致しておられます。

父母様の伝統を正しく相続するのが真の孝子（後編）において論じられています。その一部を紹介いたします。

「真の父母様の蕩滅路程は終了したからといって、墮落した人類が子女として行くべき蕩滅路程を経ず、創造本然の人間の立場にまで復帰することはできないのです。すなわち、墮落人間が『祝福結婚』を受けるための蕩滅条件（信仰基台・実体基台・長子権復帰など）……は、

これからも蕩滅復帰の『公式路程』の一環として、人類が勝利しなければならぬものです。また、氏族のメシヤ（の使命も）……蕩滅路程として残されています。……当然のことながら、最終的目的が実現されれば、手段としての摂理は必要ありません。しかし……過去のすべての罪を清算する蕩滅路程を経過し（勝利し）ない限り、神様の恨は解けず、墮落した人類が神様

の前に顔をあげて、創造本然の親子の関係を復帰することはできません。……『後天時代』の宣布が成されたとしても、まだ行かなければならない蕩滅路程が、人類に残されているのです」

真の父母様は摂理の「完成、完結、完了」を宣布されました。しかし統一教会は、天が願われる使命を果たそうとする過程の途上にあります。『原理講論』に「神の救いの摂理の目的は、墮落した被造世界を、創造本然の世界へと完全に復帰することにある。ゆえに、その時機の差はあっても、墮落人間はだれでもみな、救いを受けるように予定されているのである。ところが、神の創造がそうであるように、神の再創造摂理である救いの摂理も、一時に成し遂げるわけにはいかない。一つから始まって、次第に、全体的に広められていく」（二四六ページ）とあるように、真の父母様の勝利

圏を全体に広めるには時間性が必要です。すなわち、私たちはその勝利圏を相続し「一つ（真の父母様）から始まって、次第に、全体的に広められていく」途上にあるのです。いかなる名称を使用するにしても、私たちに「行くべき道が残されています。私たちは、真のお父様が次のように語られたことを忘れてはならないでしょう。」

「統一教会は、いつまで残るのでしょいか。地球を解放し、霊界を解放し、のちに神様を愛の心情で解放するときまで、統一教会は行かなければなりません。最後には人類を解放し、霊界を解放し、神様を解放しなければなりません。このような話を聞くのは初めてのことでしょう。神様が私たちに解放してくれるものと思っていたのに、私たちが神様を解放しなければならぬのです。心情的には神様が拘束されているということ

「統一教会は、いつまで残るのでしょいか。地球を解放し、霊界を解放し、のちに神様を愛の心情で解放するときまで、統一教会は行かなければなりません。最後には人類を解放し、霊界を解放し、神様を解放しなければなりません。このような話を聞くのは初めてのことでしょう。神様が私たちに解放してくれるものと思っていたのに、私たちが神様を解放しなければならぬのです。心情的には神様が拘束されているということ

知らなければなりません」（八
大教材・教本『天聖經』一三七
ページ）

神山氏は「宗教の使命は終わ
った」と言いますが、それはみ
言の全体像を見ずに偏った判断
をしていると言わざるをえませ
ん。真のお父様は二〇一二年陽
曆一月二十四日、聖和される年
においてさえも「統一教会を無
視するなというのです」（『ト
ウデイズ・ワールドジャパン』
二〇一二年四月十日号、一八ペ
ージ）と語っておられます。

（4）「顕進は先生と同じ方向
に向いていない」と語られたみ
言を思い起こしてください

二〇一四年十二月十五日、「真
の父母様宣布文サイト」を通じ
て寄せられた神山氏の「公開討
論をしましょう。一週間、返答
をお待ちしています」という突
然の連絡に対し、本部は即座に

返答しました。

しかし、その返答は不運にも
「迷惑メール」に入っていたと
のことで、神山氏は「私のジャ
ンクメール（迷惑メール）に入
ったため気付きませんでした。
……簡単な行き違いを、鬼の首
でも取ったように、『誠意のな
い対応はやめてください！』と
は、若干宗教人としての品性に
欠けるのではないのでしょうか」
（神山氏「日本統一教会の声明
文に対する反論」と反論します。

本部が、神山氏に「誠意のな
い対応はやめてください」と述
べたのは、ジャンクメールに入
って生じた「行き違い」の問題
だけを指摘して述べているので
はありません。本部の返答があ
るか否か、ネット上で話題にな
りつつあるときに、統一教会員
ではないある人物のブログに
「（本部からの）回答はなかった」
と掲載されたため、なにゆえ、
そのブログにこのような内容が
書き込まれたのか、疑念を抱か

ざるをえなかったのです。さら
に、その直後には、差し出し人
の住所不明の手紙（注：これは一
般的に「怪文書」と受け取られます
が本部に舞い込み、驚くほかあ
りませんでした。そこにも、「回
答がありません。よって……公
開質問状と致します」と一方的
に書かれていたために、これら
の騒動（注：わずか一週間で起こっ
た出来事なので「騒動」だと感じま
したは、初めから「自説を公開
しよう」と、意図的に仕掛けて
いたものと判断せざるをえませ
んでした。

そればかりか、神山氏が先に
「自説」を公開しており、本部
は「第一弾」「第二弾」の公式
見解でそれに応答したにもかか
わらず、神山氏はその公式見解
に「公開しよう」とせず、いきなり
「公開討論をしよう」と言って
きたことなど、それらを総合し
て「誠意のない対応はやめてく
ださい」と述べているのです。

神山氏の上述のような「誠意

語り、「全てを成した」という
み言に対して不信を表明します。
また、真のお父様は真のお母
様と「最終一体」を成し遂げ、
「すでに真の父母様ご夫妻は最
終一体を成して、完成、完結、
完了の基準で、全体、全般、全
権、全能の時代を奉獻宣布され
たのです」（『天地人真の父母定
着実体み言宣布天宙大会』のみ
言）と語っておられたのに、神
山氏は「最近のお母様の言動が、
お父様と一つになっているとは
思えません」（神山氏「公開質
問状1」）と述べて、そのみ言
を否定します。

これらの神山氏の主張は、顕
進様が語っていた内容と極め
て類似するものです。顕進様
も「お父様は、勝利的な基元節
……に向かつて、休むことなく
働いてこられました。しかし、
悲劇的にもお父様は、その目標
の完結を見ないままに霊界に逝
ってしまわれた」、「現在の統一
運動は対立と混乱と無秩序の

状態に陥っています」（顕進様

「基元節の意義」に関し全ての
祝福中心家庭に送る書信」と
述べていました。これらの顕進
様と神山氏の主張は、真の父母
様が持つておられる認識や願い
と大きく異なるものです。

ところで、真のお父様は二〇
一〇年七月十六日、いわゆる
「ボート会議」で、神山氏に対
して次のように述べておられま
した。

「顕進は先生と同じ方向に向
いていない。なぜ顕進の方に行
くのか。（神山は）ちゃんと先
生につながるのといけない」

神山氏は、反論文で「二〇一
〇年七月十六日、ボート会議で、
お父様は神山氏に対して『なぜ
顕進の方へ行くのか。ちゃんと
先生につながるのといけない』
と明確に語られた」と述べてい
ますが、最も肝心な「顕進は先
生と同じ方向に向いていない」

を欠落させています。本部は、
真の子女様と行動を共にするこ
ととそれ自体を問題視しているの
ではありません。真のお父様が
「同じ方向に向いていない」と
語られたかたに従うのは、「問
題ではありませんか？」と指摘
しているのです。お父様は次の
ように語られました。

「顕進は先生と同じ方向に向
いていない。逃げ回っている。

顕進が先生の方向に来なければ
ならないんだよ」、「顕進が先生
の方向に合わせられないから駄
目なのだ」、「統一運動はもつと
遠く深くもつと難しくなつてく
る。先生にすがっていかないと
駄目だ。これからもつと複雑

なことが起こるかも分からない。
三人の息子たちが違った方向の
考えを持っているが、共に行く
方向でやらなければ大変だ」、
「顕進は何年も前から先生と別
れているだよ」、「なぜ先生に
質問しないで顕進の方に行くの

のない対応」は、天の父母様
（神様）と真の父母様に対して、
今なお続いているものと言わざ
るをえしません。なぜなら、真の
父母様から特別に愛された神山
氏であるにもかかわらず、その
恩を忘れて、み言に対する「不
信」を表明し、その不信の言説
を全世界の食口が見ることので
きるようにブログで公開し、真
の父母様が生涯を通じて築きあ
げられた「勝利圏」「業績」を
否定しているからです。その行
為は、とんでもない反撰理的行
為となっています。

真のお父様は、聖和される前
に「全てを成した」と語ってお
られました。しかし、神山氏は
「では、お父様が全てを成した
というなら何を成したというの
か。何を成したと言おうの？」、
「お父様は……メシヤとして何
を残したのか、この地に？ 混
乱だけを残していったの？
……混乱を残したのがメシヤの
使命であり役割だったの？」と

か、「公認のうえでちゃんと先
生につながるのといけないの
だ」、「顕進は先生と同等の立場
を取っている。ほかの子は先生
を重要視している」、「こんな船
の場を本当はつくりたくなかつ
た。霊界に行っても言われる
よ」、「神山はどうなるか？ き
よの先生との船会議を多くの
食口が見ている。どのような方
向に行くか」、「顕進も、その気
だつたら一週間で（真の父母様
のもとに）帰ってこられるのに、
なぜ、帰ってこれないのか？
先生は顕進を全く当てにしてい
ない」、「顕進の事はおまえ（神
山氏）が考えなくてよい」

真のお父様が神山氏に対して
直接語られたみ言を、神山氏が
思い起こし、実践されるよう切
望します。そして、顕進様およ
び神山氏が真の父母様のもとに
一刻も早く帰ってこられるよう
に願ってやみません。